

秋田県由利本荘市沖（北側・南側）における協議会（第6回）

日時 令和7年9月4日（木）14:00～15:30

場所 秋田県庁 正庁

○経済産業省（事務局）

それでは、定刻になりましたので、ただいまから、再エネ海域利用法に基づく第6回「秋田県由利本荘市沖（北側・南側）における協議会」を開催いたします。

まず最初に、秋田県で大雨が続いております。被害に遭われている方へのお見舞いを申し上げます。

本日は、ご多忙のところ、突然の開催にもかかわらず、皆様のご出席をいただき、感謝申し上げます。

本日の会議は、一部出席者には、オンライン会議アプリを使って、各自の職場や自宅等から本日の会議に参加いただいている、リアルタイムで音声のやり取りができるようになっております。

オンライン会議の開催に当たって、主にオンラインで出席される構成員に向けてではございますが、事務的に留意点を3点申し上げます。

1点目、音声が二重に聞こえるなどの問題が発生しますので、発言いただく方のみ、カメラとマイクをオンにしていただいている、ご発言時以外は、カメラを停止状態に、音声をミュート状態にしていただきますようお願いいたします。

2点目、発言をご希望の際は、チャット機能等を活用して、発言を希望の旨、ご入力いただくようお願いします。順次、座長のほうから、「○○委員、ご発言をお願いします」と指名いたしますので、カメラとマイクをオンにしていただき、ご発言いただけすると幸いでございます。

3点目、通信のトラブルが生じた際には、あらかじめお伝えしております事務局の電話番号にご連絡をいただければ幸いでございます。改善が見られない場合については、電話にて音声をつなぐ形で進めさせていただきます。

そのほか、もし何かご不明点などございましたら、何なりとおっしゃっていただければと思います。

さて、2025年8月27日に本海域の選定事業者である「秋田由利本荘オフショアウ

ィンド合同会社」の構成員である三菱商事などから、公募当初の想定を上回る事業環境の変化を理由に、本海域での事業開発を中止した旨のニュースリリースが行われたところです。

政府としては、同社に対して、これまで多大なご協力をいただいてきた地元の皆様や関係者に対する最大限の真摯な対応を求めたところです。本日、まずは事業者から、撤退に至った経緯や理由、地域における取組等について説明をいただくとともに、今後の協議会の進め方について、皆様でご議論いただくことを目的としまして、今回、本協議会を開催しました。

それでは、議事に先立ちまして、本協議会の出席者をご紹介させていただきます。

まず、経済産業省資源エネルギー庁から、小林省エネルギー・新エネルギー部長です。

私は、経済産業省風力事業推進室長の福岡でございます。

次に、国土交通省港湾局海洋・環境課、馬場課長でございます。

続きまして、オンラインでございます。

農林水産省水産庁資源管理部管理調整課、馬場計画官でございます。つながっておりますでしょうか。

○水産庁

よろしくお願ひいたします。

○経済産業省（事務局）

秋田県、神部副知事でございます。

由利本荘市、湊市長。

秋田県漁業協同組合、杉本代表理事組合長。

同じく、菊地専務理事でございます。

佐藤副組合長は本日欠席でございます。

後藤理事も本日欠席でございます。

続きまして、東北旅客船協会、武内事務局長。

○東北旅客船協会

つながっておりますか。

○経済産業省（事務局）

よろしくお願いします。

○東北旅客船協会

よろしくお願いします。

○経済産業省（事務局）

秋田職業能力開発短期大学校、中村校長でございます。

○秋田職業能力開発短期大学校

よろしくお願いいたします。

○経済産業省（事務局）

秋田県立大学システム科学技術学部、杉本教授。

○秋田県立大学

よろしくお願いいたします。

○経済産業省（事務局）

秋田大学理工学部システムデザイン工学科、浜岡教授はご欠席でございます。

東京大学教養学部附属教養教育高度化機構、松本客員准教授もご欠席でございます。

三菱商事株式会社、岡藤常務でございます。

最後にオブザーバーとして参加いただいております環境省大臣官房地域政策課洋上風力環境調査室、大澤係員でございます。

○環境省

よろしくお願いします。

○経済産業省（事務局）

よろしくお願ひします。

以上でございます。

それでは、開会に当たりまして、資源エネルギー庁の小林部長から一言ご挨拶をいただければと存じます。

小林部長、よろしくお願ひいたします。

○経済産業省（事務局）

今、ご紹介にあずかりました資源エネルギー庁で担当部長をしております、小林でございます。

本日はお忙しい中、ご参加をいただきまして誠にありがとうございます。感謝申し上げます。ご案内のとおり、三菱商事をはじめとする企業コンソーシアムから秋田県内・外の撤退という判断がされたということです。ご地元の皆様には、大変な驚きをもって受け止められたことであるというふうに承知をしてございます。我々、資源エネルギー庁、政府といたしましても、大変遺憾なことでございました。発表があった当日、三菱商事の中西社長から報告を受けました、武藤経済産業大臣からも以下のようなことをお伝えしたところでございます。

まず一つに、再生可能エネルギーの主力電源化に向けて、洋上風力は重要な電源でありますところ、日本における洋上風力の導入に遅れをもたらすものであり、大変遺憾であります。

それから、地元の関係者の皆さんは、地域経済への波及効果も含めて、この洋上風力事業に期待をしていただき、様々な協力もしていただいてきたということでございまして、今回の撤退は、地元の期待を裏切るものということ、そして、三菱商事さんには日本を代表する大企業として責任を持って、地元の関係者と向き合って、できる限り丁寧かつ真摯な対応をお伝えしたことをお伝えしたところでございます。

我々、資源エネルギー庁の立場といたしましては、今後、ご地元の意向も踏まえて、できるだけ速やかに再公募、次の新しい事業者の選定ということに向かってまいりたいとして、武藤経済産業大臣からその旨の考え方というのは、お伝えをさせていただいているところでございます。

そのことについては、今日お集まりのご地元の皆様に、これから方向をしっかりと考えていただいて、そのことは真摯に踏まえてということが大前提でございます。

今日は、その方向に向かっていく前に、まずは撤退に至った事情と、それから判断、それから今後の地域貢献の考え方というものを、事業者の方からしっかりとお聞きすると、事業者の方からお伝えしていただくということ、その全体の大事なエッセンスとかになりますので、そうしたことをさせていただきたいというふうに考えてございます。

それから、併せて国としても、海上風力の位置づけ、それから、今後に向けた考え方ということも、後ほど改めてお伝えをさせていただきたいと思います。

そのためにも、先ほど申し上げたとおり、まずは、皆さんのお考え、お気持ち、お声をしっかりと拝聴させていただくということが何よりも大事だと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思います。何とぞよろしくお願ひ申し上げます。

○経済産業省（事務局）

小林部長、ありがとうございました。

ここで報道関係者の皆様には、協議会の運営に支障を来さぬよう、これ以降の撮影をご遠慮いただきますようお願ひ申し上げます。

よろしいでしょうか。

続きまして、本日の配布資料について確認をいたします。

議事次第のほかに、資料1、出席者名簿、資料2、配席図、資料3、秋田県由利本荘市沖（北側・南側）における協議会運営規程の改正案、資料4、秋田県「能代市、三種町及び男鹿市沖」「由利本荘市沖（北側・南側）」海上風力発電事業に係る事業性再評価概要、及び資料5、今後の地域での取組説明、資料5、今後の取組についてになります。

お手元の資料に不足がないかご確認ください。

大丈夫でしょうか。

それでは、議題の（1）本協議会の運営についてですが、事務局である経済産業省、国土交通省及び秋田県で、協議会運営規程の改正案を作成しておりますので、その主な内容をご説明いたします。

資料3、運営規程改正案をご説明させていただきます。

第14条につきましては、事務局のうち秋田県について、組織改編を踏まえた名称の変更を行っております。

第15条は、書類の備え付けについて、実態に即すとともに他海域と平仄を合わせるための変更を行っております。

第16条は、引用元である「一般海域における占用公募制度の運用指針」の改訂に合わせた変更を行っております。

別表における中村先生の役職名の変更を行っております。

今回は、形式的な修正となることから、資料の配付をもって、ご了解をいただきたいと思います。

また、運営規程第8条にも記載がございますが、座長及び副座長の任期は2年となっておりますので、改めまして、運営規程改正案の第6条に基づく座長及び副座長の選任をさせていただきたいと思います。

座長については、互選により選任され、会務を総理すること、また副座長は、座長の指名により選任され、座長を補佐し、座長に事故があるとき、または座長が欠けたときはその職務を代理することとしております。

それでは、当該規程に基づき、座長の互選に入らせていただきます。

本協議会の座長について、ご推挙ありますでしょうか。

杉本委員、お願いします。

○秋田県立大学

杉本です。私から中村委員を座長に推薦いたします。

○経済産業省（事務局）

ありがとうございます。

杉本委員から、中村委員を引き続き座長にご推挙されるとのご意見がございました。

このご意見にご異議ありますでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○経済産業省（事務局）

それでは、中村委員に座長をお願いし、以降の進行をお願いしたいと思います。

中村座長、よろしくお願ひいたします。

○秋田職業能力開発短期大学校（座長）

中村でございます。

改めてご推举をいただいたものでございます。皆様、よろしくお願ひ申し上げます。

前回も申したことでございますが、誰が座長をやるかということは本質的な問題ではございません。いかに熱心に討論を行い、前に進むかということが重要でございますので、積極的な発言を期待しております。

まず、副座長について、先ほど説明があったように選任する必要はございます。副座長は座長が指名するとなっておりますので、これにつきましても、杉本先生に引き続きお願ひしたいと思いますので、よろしくお願ひ申し上げます。

あと次に決めておく必要があることは、公開の方法でございます。この協議会は公開ということで行われております。この公開の方法でございますが、引き続き、まず、議事録、議事要旨、どちらも公表するということ。そして、一般の方及び報道関係者による傍聴を認めることを前提にしたいと思います。そして、前回話しましたように、Y o u T u b e によるリアルタイム配信は行わないことになりましたが、議論の透明性の観点から、関係者と調整をした上でございますが、録画配信を行うことにしたいと考えております。今回は、やや特殊な意見もございますので、ご理解とご協力をお願いいたします。よろしいでしょうか。

では、早速議題に入りたいと思います。

では、議題の（2）「事業性再評価の結果と今後の取組について」でございます。

皆様、ご存じのこととは思いますが、誠に残念なことではございますが、今回の中止の判断に至った経緯、理由、そして、地域への取組の今後等につきまして、由利本荘オフィショアウインド合同会社を代表しまして、三菱商事株式会社より報告をお願い申し上げます。

○三菱商事株式会社

三菱商事の岡藤でございます。

本日は、お忙しい中、急遽お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

先ほど、ご説明もありましたように、8月の27日に公表させていただいておりますが、事業性の再評価を進めておりました秋田県能代市、三種町及び男鹿市沖、そして、由利本荘市沖での洋上風力事業について、誠に遺憾ながら開発を取りやめざるを得ないとの結論に至り、撤退の旨を経産省、国交省にご報告をさせていただきました。

地域の皆様には、多大なるご理解とご支援を賜ったにもかかわらず、ご期待に応えられ

なかつたことにつきまして、深くおわび申し上げます。

事業性の再評価に当たつては、事業会社を構成する各社と共に、取り得る様々な手を尽くして検討してまいりましたが、足元の事業環境においては、撤退せざるを得ないとの判断となり、今回苦渋の決断ですが、撤退という結論に至つたものであります。

洋上風力事業からは撤退となります、私どもが目標に掲げ、地域の皆様とこれまで様々なご相談をしながら進めてきた地域共生策に関しましては、引き続き責任を持って継続させていただく所存であります。

それでは、お手元の資料4に沿いまして、再評価の内容、また、今後の地域の取組についてご説明をさせていただきます。失礼ですが、着席させていただきます。

スライドをお願いいたします。

ちょっと小さいですが、お手元のほうをご覧いただければと思います。

今申し上げたように、8月の27日に経産省、国交省のほうに撤退の旨をご報告しておりますが、撤退の理由につきましては、まず、コスト面につきましては、新型コロナウイルスの蔓延やウクライナ危機に端を発し、とりわけ、サプライチェーンの逼迫、インフレ、為替、金利上昇など、洋上風力業界を取り巻く事業環境が世界的に劇的に変化した結果、私どもの当初の想定をはるかに超えてコストが膨らんだことがあります。再評価の過程においては、コントラクターの皆様から新しいご提案を様々いただきながら、最適化の検討を進めてまいりました。それでも、入札当時、当初見込んでいた金額と比較して、建設費用が2倍以上に膨らんだという結果となっております。また、これに加え、将来、さらにコストが変動するというリスクも存在するという判断をしております。

一方、収入面につきましては、事業期間の延長やFIPへの移行などが審議会でご議論いただいているということから、こういった施策も含めまして、コスト増に対応する方策というものを検討してまいりましたが、仮にこういった各施策が実現した場合においても、事業の継続は困難であるという結論に至つたものです。

そのほかにつきましても、工程の見直しであったり、風車の変更といった可能性も含め、取り得るあらゆる手段を精査いたしましたが、足元の事業環境においては、開発の継続は難しいという判断に至つたものであります。

次のスライドをお願いします。

応札当時、21年の5月からの事業環境の変化です。まず、21年5月応札時点ですが、その時点、その段階で見通せる事業環境、資材価格、インフレ・金利、その他もろもろの

要因も含め、一定の採算を確保した上で、公募に参加させていただいております。

当社、当事業者コンソーシアムの提案内容に対し、政府、第三者委員会から事業計画の実現性、あるいは、財務計画の適切性等の総合的な評価をいただいた結果、21年の12月に事業者に選定していただいたということであります。

その後、4年間ほどかけまして、開発を継続してまいりましたが、大幅な事業環境の変化に直面し、再評価を実施しております。

コスト面におきましては、風車のサプライヤーの変更、これはかなり大きな決断ではありました、風車のサプライヤーの変更であったり、あるいは工事会社の切り替え等、こういったところも含めて、あるいは工程、工法、こういったところの見直しも含めながら、抜本的な再検討を進めてまいりました。

また、収入面におきましては、コーポレートPPA、これはFIP転が実現した場合ということですが、コーポレートPPA採用による収益性改善、この可能性も検討してまいりました。

こういった様々な検討を重ねてまいりましたが、サプライチェーンの逼迫であったり、あるいは、このスライドの下段のほうにお示しをしておりますような様々な世界情勢、経済情勢の変化によりまして、最適化を図ってもなお建設コストが応札時との比較で、2倍以上という増加となるという結果になっておりまして、収入面における様々な検討、コーポレートPPA等の検討も含めてもなお、事業期間を通じての総支出が総収入を上回るという評価となったものであります。

この判断、この結論を踏まえて、巨額投資の回収ができないということで、誠に遺憾ではありますが、開発が困難であるという結論、判断に至ったものであります。

次のスライドをお願いします。

コスト面での最適化の検討、これは全てをご説明することができませんので、一例ということですが、風車のサプライヤー、これは当初、ご提案、応札時に想定をしていた風車サプライヤーさん、あるいは風車の機種、これを抜本的に見直すという検討の中の一例ではありますが、風車のサプライヤーさんを替える、あるいは風車の機種を最新型の大型のものに替える、こういったところから抜本的な見直しを進めてきたものであります。下の図のほうに、ちょっと簡単にイメージを書かせていただいているが、当初想定していた風車よりも大型のものを採用することで、全体の基数、本数が減る、減らすことができる。一方で、出力、トータルの発電量は変わらない、ないし微増が期待できる。その一

方でコストは低減ができると、こういったことを想定して検討してきたものであります。

ほかにも、風車のみならず、洋上の工事であったり、陸上の工事、こういったところにつきましても、抜本的な見直しを進めてまいりました。

ただ、誠に残念ですが、先ほどご説明のとおり、そういった検討をしてもなお、建設費が当初の2倍以上に膨らんでしまったということでございます。

次のスライドをお願いします。

次に、収入面での検討内容でございます。

もともとラウンド1の入札は、F I T、固定価格の買取制度をベースに入札が行われ、私ども事業者として選定していただいたという一方で、政府の審議会のほうで、F I TからF I P転という政策の流れを踏まえて、洋上風力のF I P転ということについてもご議論をいただいていたという認識を持っております。

当然のことながら、F I P転が仮に実現した場合という前提の下ではありましたが、私どものほうでは、F I P転になった場合に、コーポレートPPAという形で、ある程度の価格で引き取っていただけるオフティカーの方、こういった方々を探して、様々な検討、それから協議を重ねてまいりました。

ただ、この資料の4つ目のビュレットのところでありますが、運転開始が数年先になるという言わば不透明さが残る中で、私どもの事業が成り立つための価格レベルで引き取っていただけるというお約束をいただける需要家の方、オフティカーの方が、残念ながら見つからなかったということであります。

また、仮にコーポレートPPAが成立するという見通しが立った場合でも、事業期間の長さということを勘案した場合に、どうしてもその不確実性がその事業計画の中に残ってしまうといったところ、こういったところも私どもの最終的な判断の中にはございました。

下段のほうに、経産省さん、政府のほうで、いろいろご議論、ご検討いただいているというF I Pへの移行、それから価格調整スキーム、あるいは、事業期間の延長、こういったものがございます。こういった可能性も、私どもの再評価、再検討の中では、前提を置かせていただきながら、検討の中に含めてやってきたということであります。

次のスライドをお願いします。

撤退に至った、誠に申し訳ないのですが、その判断の背景・経緯というのは、今、ご説明のとおりであります。一方で、洋上風力事業ということからは今回、誠に申し訳ありませんが、撤退ということになりますが、今まで取り組んできております地域の皆様とご

相談しながら進めてきているもろもろの共生策、施策につきましては、私どもの年で責任を持って継続させていただきたいということを考えております。

大きく言って3点あると思っております。

まず、今まで、この3年、4年の間に、関係者の皆様、地域の皆様と、ご相談をさせていただきながら取り組ませていただいた、あるいは、取り組ませていただいている施策につきましては、これは引き続ききちんと継続をさせていただくと、こういったことを考えております。

次のページ以降で写真を入れながら、どういったことをやってきたのか、どういったことでやっているのかというのをご紹介しておりますが、今日は時間の関係もございますので、割愛をさせていただきたいと思います。

大きいいって3つのカテゴリーがあると思っております。

1つは、事業化に向けた実証の支援ということで、例えば、AIの技術を活用した地域の皆様に資するオンデマンド交通、こういったもの。あるいは、漁業において、真牡蠣の養殖のご支援、こういったことをやってきております。

それから2つ目としましては、地域・漁業の関係で共生策をいろいろさせていただいております。これも一例ではありますが、教育、STEAMの教育プログラムのご協力をさせていただいたり、あるいはサケのふ化放流事業、こういったところのお手伝いをさせていただいているということです。

3つ目といたしましては、地域そのものの課題、こういったものにも向き合っていこうということで、当社のグループを通じて、ローソンの出店、なかなか買物がしづらいというお声もいただいておりましたので、こういったところでもお手伝いをさせていただいているということです。

今申し上げたような様々な取組中の施策にとどまらず、今後、地域の皆様と丁寧にご相談をさせていただきながら、皆様のニーズを踏まえて、個別にどういった施策を続けていく、やっていくことが、地域の皆様のお手伝いにつながるのか、貢献できるのか、こういったことを決めていきたいというふうに考えております。

2点目ですが、洋上風力の事業と直接の関連はないですが、洋上風力の事業をさせていただくことをきっかけに、当社三菱商事として、秋田に支店を開かせていただいておりまして、この支店を通じても様々な取組をさせていただいております。この三菱商事秋田支店につきましても継続をしたいと考えております。秋田の未来づくり会議といった

様々な場、機会を使わせていただきながら、今後、地域の皆様とこれもご相談をしながらということになりますが、課題の解決に引き続き取り組むということを考えております。

そして3点目ですが、私どもとして、やはり次の事業者の方に、いかに早く出てきていただいて、バトンをつないでいくか。この時間をどうやって短くできるか、これが、私どもとして、できること、やるべきことだというふうに認識をしておりますので、このために必要となる、ありとあらゆるお手伝いをさせていただきたいということを考えております。例えばですが、これまで私ども、3年、4年かけて開発を続けてきた結果、様々なデータ、知見を私どもは持っておりますので、こういったものにつきましては、次の再公募、次の事業者の方を選んでいただく上で、短縮につながるものがあれば、経産省さんとご相談をしながら、こういったものの提供、これもやっていきたいということを考えております。

次のスライド以降は、先ほど、今、申し上げた取組、地域共生策のご紹介となりますので、本日のご説明では割愛をさせていただきたいと思います。

私からのご説明は以上となります。

○秋田職業能力開発短期大学校（座長）

ありがとうございました。

それでは、皆様からのご意見・ご質問を頂戴したいと考えています。なお、本議題につきましては、皆様の意見に真摯に回答いただきたいと考えておりますので、1人ずつ回答をお願い申し上げます。

また、今回につきましては、ほとんどの皆様、意見があるかと思いますので、順次指名させていただきます。

まずは、直接の関係者、由利本荘市長、湊様、お願ひいたします。

○由利本荘市

改めまして、由利本荘市長の湊貴信であります。

まず、私のほうから少し発言をさせていただきたいと思いますが、既に撤退ということで結論が出たことありますので、今後に対する話という、ちょっと所感的な部分も多少はありますが、少しお話をさせていただきます。

まず、率直に言いまして、今回のこの撤退ということについては、大変残念な思いでい

るところであります。もともと洋上風力の話がずっと出始めてから、由利本荘市内には、限らないかも分かりませんが、いろいろと心配の声であったり、反対される声もございましたし、漁業者の皆さん方からも不安にされる声が当初あったわけですが、いろいろなしつかりした説明等々もしていただきながら、皆さんには一定のご理解をいただきながら、やっとここまで来たというような思いがありましたし、一日も早い稼働を非常に期待をしていたところでありますが、ここに来て今、様々ご説明をいただきまして、三菱商事さんをはじめ、各事業者の皆さんにとっても大変残念なというか、本当に検討の中でできなかつたというきつと思いもあるということも十分理解をしたわけですが、大変残念であるということがまず思いの中で一つあります。

ちょっと今懸念をしていることとして、まずは先ほどちょっと触れましたが、漁業者の皆様方、非常にご理解をいただき進んでおりましたが、今回こうした結果になったことによって、大変心配な思いであったり、今後についてやっぱり不安だとか、もしかしたら怒りに近いものをお持ちの方もおられるのかも分かりません。そうしたこともあるって、次に、また、再公募といったときに、なかなか理解を得ると、得ていただくということについて、少し懸念があるなという思いも今、持っているところであります。

また、洋上風力の稼働の事業に向けまして、由利本荘市内のいろいろな事業者の皆さんも期待をしておりましたし、先行投資をされた企業の皆さん方もおられるわけであります。大きな影響が出て、地元企業に皆さんのはうに、また、そういったいろいろな影響、悪い影響が広がるということがないようにということもありますし、そうしたことが懸念される場合には、ぜひ皆様方からもお力添えをいただきたいというふうに思っているところであります。

まずは、今回のこの結果については、大変残念だということをちょっと発言をさせていただいて、終わりたいと思います。

○秋田職業能力開発短期大学校（座長）

ありがとうございました。

三菱のほうから何かご意見、発言はございますか。

○三菱商事株式会社

ありがとうございます。

もう、お言葉は大変重く受け止めております。地域の皆様、漁業の関係者の方々、それから、地域の事業者の方々、大変なご期待をいただいていた、あるいは、ご支援、ご理解をいただきながら、ここまで来ていたということは、もう私も重々承知をしておりますし、本当にその点につきましては、おわびを申し上げるしかないというふうに考えております。

先ほどご説明のとおりですが、しっかりとどういった点にニーズ、お困りのことがあるのか、どういったところが、私どもとして、今後も引き続きお手伝いさせていただけるのかというあたりを丁寧にご相談をさせていただきながら、対応してまいりたいというふうに考えております。

○秋田職業能力開発短期大学校（座長）

よろしいでしょうか。

○由利本荘市

先ほど、地域共生のことについて、ありましたが、もう一つの思いとして、これまで、三菱商事さんに、本当に正直やっぱり由利本荘市としても大変お世話になってきたという思いも正直持っています。なので、今後もずっと由利本荘市に対しましても、引き続きしっかりとやっていくというお話を先ほど伺いましたが、引き続き、私どもの地域共生についてもお力添えを、ぜひお願ひをしたいと思っています。

○秋田職業能力開発短期大学校（座長）

三菱のほうも、今の発言をよく検討していただければ、ありがたいと思います。地域にとっても三菱にとっても、双赢・双赢になるようなことを考えることができればと思いますので、よろしくお願ひ申し上げます。

○三菱商事株式会社

承知いたしました。

○秋田職業能力開発短期大学校（座長）

続きまして、県漁協の杉本組合長、いかがでしょうか。

○秋田県漁業協同組合（代表理事組合長）

私も、ただいま、由利本荘市の湊市長さんからあったように、うちとしては、最初のときから協議会、始まる頃から、いろいろなお話を聞いて、いろいろな決め方をしながら、やっとここまで来たという感があります。それが今ここに来て、こういう状態になってしまった。次に出てくるであろう、その事業者の方々への協力について、どれほどのことができるのか、非常に危惧をしているところでございます。決まる、決まらないにしても、できれば時間を短縮していただければと思います。よろしくお願いします。

○秋田職業能力開発短期大学校（座長）

いかがでしょうか。三菱の方。

○三菱商事株式会社

ありがとうございます。

再公募に向けたお手伝いは、先ほどもちょっと触れましたが、最大限、私どもでお手伝いできることをやっていくということ、それから漁業の関係の方々とも、今後どういったところで我々がお手伝いできるかということを個別にご相談をさせていただきながら、しっかりと対応していきたいというふうに思います。

○秋田職業能力開発短期大学校（座長）

では、続きまして、菊地専務理事、お願ひいたします。

○秋田県漁業協同組合（専務理事）

菊地です。

私からも、組合長もお話ししたように、重なることではありますが、これまで何年かにかけて、いろいろ会議のをしてきていただいたわけでありますけれども、その中で、いろいろな問題点が多々ありました。昨日の由利本荘市での説明会の中でもたくさん意見が出ておりましたけれども、それらにも様々な問題にも真摯に対応していただいて、次の事業者の決まったときに、漁業者の中に多くしこりがないようにして、お渡ししてあげてというふうに考えてございます。よろしくお願いします。

○秋田職業能力開発短期大学校（座長）

よろしいでしょうか。

○三菱商事株式会社

承知いたしました。

私も、繰り返しになりますが、無責任に放り出すということは一切考えておりませんので、どういったところにニーズがあるのか、どういったことでお困りなのかということをきちんと丁寧に会話させていただきながら、対応していきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願ひいたします。

○秋田職業能力開発短期大学校（座長）

では、続きまして、秋田県副知事、神部さん、よろしくお願ひ申し上げます。

○秋田県（副知事）

秋田県の神部でございます。

ご説明いただきました、私どもの受け止めをまず申し上げさせていただきますと、今回のプロジェクトは、単に民間による大規模な事業であるということではなくて、法に基づいて、国がデザインしたスキームの中で、手挙げでの事業者選定がされて進められてきたという経緯がございます。

そういうことで、今年2月に事業性の再評価を行うということを表明されましたけれども、私どもはこういった事業の公益的側面、あるいは、その事業者となったのが、ほかでもない我が国を代表する企業であります三菱商事を代表とするグループであるといったことなどから、事業日程の見直し、あるいはスケジュールの変更があっても、撤退はないと考えていただけに、今回の決定については、大変大きな衝撃を持って受け止めています。

秋田県では、安定的で発展性のある産業経済基盤を構築していくということが長年の課題でありました。こうした中で、洋上風力発電の導入拡大、そして、そこで生み出されるクリーンなエネルギーを活用した産業の集積、これが、我が国が目指すカーボンニュートラルに貢献しながら、これから秋田を牽引していく大変大きなプロジェクトになると捉え、県が先頭に立って、関係自治体、民間事業者、業界団体、経済団体とも一丸となって、

先行投資を含めて、円滑な推進に向けて取り組んできたところであります。

これまで、秋田県は、事業主体ではございませんけれども、事業推進のパートナーであるという意識でもって取組を進めてきただけに、この事業性の再評価の表明があって、その後、一定の期間を経て、こちらからの受けとめとしては、いきなりの撤退の決定、表明というような印象がございます。そういった流れは、非常に残念であり遺憾に思っております。

今回の判断が及ぼす影響は、広範な分野に及びかつ多大なものとなると思われます。関係者に対しまして、これからも経緯や理由についての丁寧な説明をお願いしたいと思いますし、社会的な責任を果たす意味において、影響を受ける多くの方々に誠意ある対応をお願いしたいというふうに思います。

その上でということでございますけれども、先ほどご説明がありました、これまで取り組んでいただいている地域共生策をぜひ継続をお願いしたいということと、これもご説明がありましたので安心しておりますけれども、秋田の課題解決、発展に向けた多方面のチャレンジにつきましても、今後も積極的に関与いただきますようにお願い申し上げたいと思います。

以上でございます。

○秋田職業能力開発短期大学校（座長）

ありがとうございました。

先ほど、失礼しました。お名前は「じんぶ（神部）」様でした。大変失礼いたしました。

三菱のほうから何かございますか。

○三菱商事株式会社

ご指摘いただいた点をもう重々肝に銘じて、地域の関係者の皆様とこれからも向き合つて、しっかりと果たしてまいりたいというふうに思っております。引き続き、ご相談させていただければと思います。よろしくお願ひいたします。

○秋田職業能力開発短期大学校（座長）

ありがとうございました。

続きまして、杉本先生、お願ひいたします。

○秋田県立大学

県立大学、杉本です。

県立大学としても、現在もそうですけれども、洋上風力人材育成という形で、大学もいろいろ試みを進めているところですけれども、やはり由利本荘市沖という本荘キャンパスから一番近いところに風車が建つということに対して、ものができれば、そちらに動機付けられて、関連分野に進もうとする学生もたくさん出てくれるだろうと期待をしておりましたので、ちょっとここで、それが一旦頓挫するというのは、大学に、教育に携わっている者としては、ちょっと残念ですけれども、ぜひ、なるべく早く、次の事業者が決まりまして、本荘に洋上風力、風車が建つところを応援しご協力していただければと思います。また、これまで、洋上風力が開発されるということで、そこで働く方が増えるということで、ちょっとアパートや何かの部屋が足りなくなって、入学してくる学生がアパート探しに結構苦労するということもございましたので、できれば、次の事業者の方には、そういうところまで配慮いただきたいと、お伝えしていただければと思います。

私からは以上です。

○秋田職業能力開発短期大学校（座長）

ありがとうございました。

何か三菱のほうからご発言ございますか。

○三菱商事株式会社

大学のほうでも、洋上風力業界のこれから発展ということを見通しながら、様々なお取組をされていたということで、この点についても重く受け止めております。繰り返しどなりますが、次の事業者ができるだけ早く出てこられるように、私どもとしても、できる限りのことはしていきたいというふうに考えております。

○秋田職業能力開発短期大学校（座長）

ありがとうございました。

ほかにございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

せっかくですから、私から一言発言させていただきたいと思います。

多分、私も踏まえてでしょうけれども、今回の内容は、今の説明を聞いても完全には納得できないと思う。ただ、ここで何を言っても、三菱商事の決定事項は、残念ながら変わらないと思うのです。ならば、我々としても残念ですが、このことを認めて、どうすれば次のステップに進めるか、それを考えたほうがいいのではないかと個人的には思っております。非常に残念なことですが。

というわけで、今後、本日のご意見、ご質問を踏まえまして、まず、国におきましては、洋上風力に関する事業が非常に厳しいのは明らかでございますので、事業環境整備に向けてしっかりと取組を進めていただきたいという、そして、事業者におきましては、地域の声として、今の発言を真摯に受け止めていただきたいということを考えております。

では続きまして、議題の（3）に進みたいと思います。今のことございますが、「今後の取組について」ということでございますが、これについては、事務局から発言をお願いいたします。

○経済産業省（事務局）

ありがとうございます。資源エネルギー庁の福岡でございます。

私からは、資料5について今後の取組について、ご説明申し上げます。

先ほどの地域の皆様のコメントにもございましたけれども、頂いた意見について我々としてもできることをしたいというふうに思っております。

1ページ目ですが、当面の取組をお示ししております。

まずは、三菱商事による今後の地域共生策等の方向性のフォローアップですとか、再公募に向けた環境醸成とかコンセンサスの醸成など、地元への丁寧な対応、コミュニケーションを実施してまいります。

あわせまして、国の審議会において、撤退要因の検証を行うとともに、制度見直しを含めた事業環境整備を行ってまいります。

その上で、これらの取組を踏まえて、地元の皆様の意向に沿いながら、できるだけ速やかに再公募を実施することを目指してまいりたいと考えております。

2ページ目でございます。今後の進め方の案をお示ししております。

国としては、地元のご意向をしっかりと踏まえた上で、メンバー間で議論を行い、協議会での再とりまとめと再公募に向けた対応を進めていきたいと考えておりますので、構成員の皆様のご意見をお聞かせいただきたいと思います。

3ページ目以降は、参考資料として、経済産業大臣と中西社長との面談概要ですとか、第1ラウンドの公募占用指針に定めた関係条文を抜粋したものをお付けしておりますので、後ほどご確認いただければと存じます。

以上でございます。

○秋田職業能力開発短期大学校（座長）

ありがとうございました。

それでは、構成員の皆様からご意見、ご質問を頂戴したいと考えております。本議題につきましては、挙手制で行いたいと思いますので、ご意見、ご質問のある方は挙手いただきますようお願い申し上げます。

お願いいたします。

○秋田県漁業協同組合（専務理事）

漁協の菊地でございます。

今回、今回というか令和2年に取りまとめた、法定協議会の取りまとめの内容でございますけれども、それについては、どの程度、手を入れて、動くということ、これをそのまま使われるわけではないだろうとは思っておりますけれども、例えば、第1ラウンドというのは発電、売電だったので、こういう形になってございましたが、第2ラウンド以降は発電能力も250、このような形、それに第2、第3はなったので、そのような形にしていただければ、ありがたいなということと、もう一つは、第1ラウンドのところに、漁業影響評価というのが一応書かれてはいるのですけれども、非常にあつさり書かれているのが気になります。第2ラウンド以降も、中にはきちんとした報告書みたいなものも書いている地域もありますし、もう少し、例えば、企業側への評価はどのぐらいやるとか、事業の評価はどういうことをやるかとか、それから、どういう業種、どういう魚種、漁法というものについて、どのようなことをしてやるかというようなところを、できれば、法定協議会の中に実務者会議を設けて、検討するような形をひとつ考えていただければありがたいのと、法定協議会と並行してやっていていただいて、あくまでも県の水産部局や水産振興センターの考えなのかというところを取り入れていただいて、やっていただければ漁業者としても納得できるようになるのではないかというように思いますので、そこをぜひひとつ考えていただいて。

○経済産業省（事務局）

ありがとうございます。

まさに、今回の由利本荘の第1ラウンドというのは、最初に法定協議会をやったこともありまして、第2ラウンド以降の意見で、新たに改善をされた部分というのもあろうかというふうに思ってございまして、先ほどの基金の話ですとか、漁業影響調査、実務者ワーキング、いずれも、第2ラウンド、第3ラウンドで、追加をされている部分もございますので、こういった点も含めて、今後、まずは再公募に向けてということが前提になりますけれども、その合意形成をやった上で、取りまとめる内容について、個別検討させていただければというふうに思っております。

その際には、その内容の改善もそうでありますし、どこまでやるかというようなスピード感の観点もございますので、そういったものも加味しながら、全体をよいものにしていきたいというふうに思ってございます。

以上でございます。

○秋田職業能力開発短期大学校（座長）

よろしいでしょうか。

ほかにございませんか。

市長、お願いいいたします。

○由利本荘市

それでは、私のほうからも、質問というか、少し要望的な要素もあるか分かりませんが、お話をさせていただきたいと思います。

地元の気持ちとしては、まずは再公募、事業については、できるだけ速やかにというか、早くやっていただきたいということ、それから、いろいろなスケジュールなどの詳細な情報提供についても、不安に思われている方々に対するものもあるので、情報はできるだけ早めに教えていただきたいということあります。

これも、言うまでもないことでありますが、再公募で事業を進めるに当たり、これは、皆さんも考えていただけると思いますが、二度とこういうことがないように、こういうことがと言うと、表現がちょっと適切でないかも分かりませんが、確かに長いスパンの事業

になるので、なかなか先の見えないということ、そこについても理解をするものでありますけれども、地元としては、また、同じような形で振り出しに戻るということだけは、ないようにと、ぜひ強くお願ひを申し上げたいと思います。

先ほど、菊地さんのはうからも話がありましたが、第1ラウンドと第2ラウンドのところで、やっぱりいろいろ出捐金の関係もありましたが、結構差というか、大きくあつたなという思いが今あります。ぜひ平等にというか、あまり不公平感のないような仕組みで、再公募等々のはうも進めていただきたいということを、これはぜひお願ひをしたいことであります。

また今回、由利本荘市としても、この洋上風力が進むとなってから、今までのお話を私も議会からもいろいろありましたが、その中で一つあつたのが、発電、地元の自分たちの海の海域で発電される電気を地元で利用するような仕組みというのはできないものかという話はかなりありました。ハードルが高いのも十分理解しますが、考え方として、そういうことができるというような仕組みというかスキームなんかも、できれば考えていただければ、自分たちの海でやったものが私たちのこの電気になっているのだというあたりについて、なっていっていただければ大変ありがたいなと思います。

もう一つ、ちょっとすみません。ばーっと言って申し訳ないですが、やはりいまだに、健康被害も含めていろいろと心配される方、また、景観等々も含めて反対される思いというのはやっぱりあるわけでありますので、引き続き、そういった方々の声にもしっかりと対応して説明を尽くしていただければなと、お願ひをしたいと思います。

私からは、以上であります。

○経済産業省（事務局）

ありがとうございます。

5点ほどコメントいただいたというふうに思っています。できるだけ早く再公募という点を受け止めて、よく受け止めて、プロセスを進めていきたいと思っております。

スケジュールの情報提供についても、しっかり進めたいと思いますので、適時適切にスケジュールを情報共有し、提供していきたいと思っています。

3点目、二度とこういうことがないように、我々もそこは全く同じ思いでございまして、今後の関係審議会において、事業環境整備なども進めていきまして、こういうことのないようにしていきたいと思っています。

あと、地元で電気が使えないかとか、健康被害ですとか、そういうしたものについても丁寧に対応していきたいと思っております。

以上でございます。

○秋田職業能力開発短期大学校（座長）

よろしいでしょうか。

全く個人的な考えなのですが、地元で利用と言われましたが、由利本荘で発電する以上、由利本荘市は少し電気代を安くするということは可能なのかなと、私は前から考えていたのです。そうすると、由利本荘に工場を造ると安く電気が使えるという企業誘致にも使えるなど。そういうことが果たして可能かということをずっと前から私は考えていたのですが、どうも難しそうなのですが、そういうことが将来可能になりましたら、やはり発電所を持っているということのメリットが出てきますし、地域の発展にもつながりますので、国のほうで考えていただければなというふうに思うのですが。

○経済産業省（事務局）

現状では、なかなかそういうのは難しいわけではありますけれども、例えば、ほかの自治体のアイデアとしては、電力クーポンを配るなどいろいろなやり方があるのかなと思いますので、個別にはまた相談させていただきたいと思います。

○秋田職業能力開発短期大学校（座長）

ありがとうございました。

ほかございませんでしょうか。

お願いいいたします。

○秋田県（副知事）

重複する部分はありますが、私からも何点かお願いしたいと思います。

まずは繰り返しになりますが、このプロジェクト、県としても大変大きなプロジェクトだと認識しております。ですから、何としてもこれは実施していただきたい。もちろん、地元の関係者の方々の理解を改めて得た上でという前提となります。そのためには、先ほど、県漁協からご提案があった漁業影響調査のさらなるところ、もう1回調査なども含

めて様々な対応をしながら、地元の方々の理解をしっかりと得た上で、何としてもプロジェクトを実施してほしいと思います。そして、できる限り早期の再公募を求めるたいと思います。

そして、湊市長からもありましたけれども、今回、事業撤退に至った背景を十分に踏まえて、事業がしっかりと最後まで完遂できるような制度設計をお願い申し上げたいと思います。

それから、今回の撤退に伴いまして、様々な影響を受ける方々がたくさんいるというお話を先ほどもさせていただきました。特に、先行投資した民間事業者は、県としても寄り添った対応をしてまいりたいと考えておりますけれども、国におかれましては、その点につきましては、最大限かつ弾力的な対応をお願いしたいと思います。

それから最後に、地元としても、官民挙げてのプロジェクトという考え方で、できる限りそのプロジェクトの推進に、これからも貢献していきたいと思っておりますので、そこは事業主体の方々、そして国、それと地元が、より密な意思疎通の下で、プロジェクトを共に推進していくよう、ご配慮いただきたいと思います。

以上でございます。

○秋田職業能力開発短期大学校（座長）

ありがとうございました。

国のほうから何かございますか。

○経済産業省（事務局）

コメントいただきまして、ありがとうございます。プロジェクトを早期に実施してほしいというコメントをいただきました。我々も、それに向けて、かつ、その中で業務関係者の皆様を含め、様々な対応をしながらということで、しっかりと地元に寄り添いながらプロセスを進めていきたいと思っております。

その際に、次の事業者がしっかりと事業を完遂できるような環境整備、制度設計にも取り組んでいきたいと思っています。あとは、まさに先行投資をした事業者ですとか、そういった漁業関係者の皆様への影響もしっかりと寄り添って対応をしていきたいと思っております。県のほうでも、影響調査をされていると認識をしていますので、そういうニーズに基づいて、しっかりと対応していきたいと思っております。

発電事業者と県と我々のこの事務局の国で、より緊密に情報共有、連携をしながらというところも、今まで以上に重要だというふうに認識をしていますので、これを進めていきたいというふうに思います。

○秋田職業能力開発短期大学校（座長）

ありがとうございました。

ほか、ございませんか。

では、そろそろまとめに入りたいと思います。

多くの方から意見をいただきましたが、やはり事業者をできるだけ早く速やかに決める必要があるというのは、ほとんどの方の意見だと思う。そのため、次回以降ございますが、再公募を行うということを前提に検討を進めることにしたいと考えております。そして、具体的には、これも指摘がありましたが、協議会意見の見直し、それを議論していくことにしてはどうかと考えておりますが、皆様、それでよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○秋田職業能力開発短期大学校（座長）

ありがとうございました。

それでは、事務局におきましては、再公募を行うことを念頭に、次回以降、協議会意見の見直し、調整、整理を行っていただくようお願い申し上げます。

本日予定しておりました議題については以上となります、事務局から何かござりますか。

○経済産業省（事務局）

ありがとうございます。

それでは、事務局より、今後の協議会の進め方について確認させていただければと思います。

先ほど、中村座長からご提案があったとおり、本協議会としては、本海域で再公募を行う方向で調整することとし、その再公募に向けて、協議会意見とりまとめの見直し等について、次回以降、検討させていただければと考えております。

具体的な開催時期や内容については、改めて調整させていただければと思いますので、引き続きよろしくお願ひいたします。

最後に、閉会に当たりまして、小林部長より一言ご発言をさせていただきます。

よろしくお願ひいたします。

○経済産業省（事務局）

改めまして、本日、お忙しい中、ご参集いただき真摯な議論を重ねていただきましたことに改めて感謝を申し上げます。

本日、この場では、ご参加の皆様、それから、皆様が代表される地元の方々から、忌憚のないご意見を賜れたものと受け止めております。そのことに深く感謝を申し上げる次第でございます。

本日、まずは、三菱商事から経緯、判断及び今後の地域との向き合い方ということについてお話をございましたけれども、事業者として会社として、しっかりと丁寧かつ真摯に、この地域にしっかりと対応していくのだという考え方を、この場でも改めて確認することができたかなというふうに思ってございます。企業のいわば社会的責任として、そのことを全うしていくということだったと思いますけれども、国としても、その進捗をしっかりと見届けて、地域の皆様のご期待とのずれがあれば、県とも連携しながら、国としても、しっかりと対応していくということにしたいと考えてございます。

それから、神部副知事のほうからも、事業者への影響というお話をございました。県と市で、しっかりと把握して対応していくということの上に、さらに国としても、最大限ということ、それから弾力的にというようなお話をございました。我々も、地域経済があつての長期の事業ということでございますので、これまでご協力、ご期待をいただいてきた方々にいろいろなご心配、もしくは、マイナスの影響というものが、大きく生じないように、しっかりと県と連携して対応していきたいというふうに考えてございます。

それから、今後に向けてということでございますが、座長、取りまとめていただいたとおり、できるだけ速やかな再公募に向けてということで、それを前提に議論を重ねていただけるということで、我々としても、この国のエネルギー政策の重要な柱であるところの洋上風力事業、もう一度この地域での再出発をしていきたいということで、大変重く受け止めました。

そのためにも、先ほど室長の福岡から、要因検証、撤退の分析をしっかりとしていくとい

うこと、それから、事業環境整備をしっかりと取り組むとお話しさせていただきましたけれども、今後に向けて、次の事業者がしっかりとやり遂げられるよう、我々として、本省に戻りまして、そうした取組を、スピードを上げてしっかりとやっていきたいというふうに考えてございます。

全体のスケジュール等については、由利本荘市長からもご要望があったとおり、密にお話をさせていただきたいというふうに思いますけれども、国の審議会のほうの検討については、もう夏も終わろうとしておりますけれども、できるだけ早いうちに、ひとつ年内をめどに、いろいろな検討について見通しを立てて、皆様方の、こちらでの協議会の議論の前提としていただけるよう、スピード感を持って取り組んでいきたいというふうに考えているところでございます。

本日、このような場で、皆さん、しっかりとご議論いただきましたことを改めて感謝申し上げます。またこのような場、それから、個別にも密に情報提供及びご意見交換をさせていただきまして、地元との共生を大事に国としての政策を進めてまいりたいと思います。引き続きのご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

○秋田職業能力開発短期大学校（座長）

ありがとうございました。

今回の三菱の撤退は非常に残念なことでございます。しかし、三菱の中西社長の発言にもございますように、日本はエネルギー資源が乏しいという事実は一向に変わりません。このように考えますと、洋上風力発電は必要不可欠な電源であるということは間違いないと思います。そのような背景の下、事務局におかれましては、本日の議論を踏まえまして、次回以降に向けてご審議いただることと思います。

それでは、以上をもちまして、本日の協議会を閉じたいと思います。

本日はご多忙のところ、ご熱心にご議論いただき、誠にありがとうございます。

以上で終わりたいと思います。

―― 了 ――